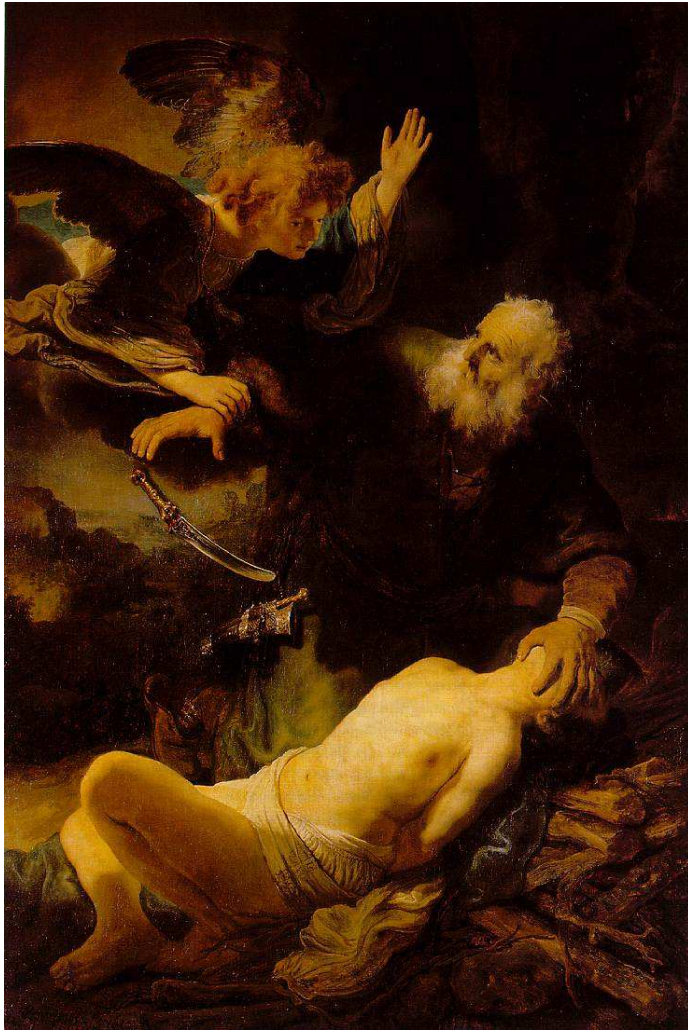


聖書ガイドブック

創世記



創世記

そうせいき、ヘブライ語 קְנֵסֵס , ギリシャ語 $\epsilon\upsilon\gamma\epsilon\lambda\gamma\iota\alpha\iota$, 英 Genesis)いわゆるモーセ五書は、ユダヤ教においてはトーラーと呼ばれている。創世記はヘブライ語では冒頭の言葉をとって「ベレーシース(ベレシート、ベレーシート、ベレシース)」「(はじめに」の意)と呼ばれており、ギリシャ語名の「ゲネシス」は「誕生、創生、原因、開始、始まり、根源」の意である。

前半(1~11章)が、天地創造から、アダムのパラダイス追放 - カインのアベル殺し - 洪水による粛清(ノアとの契約)が書かれている。後半(12~50章)が、族長物語として、アブラハムのカナンへの旅(甥ロト、妻サラ同伴)での神との出会い、ソドム滅亡物語、イサクの奉獻など。イサク、ヤコブ物語、ヨセフ物語と続き、一族のエジプトへの下向で終わる。

特徴 - 天地創造は、世界と人間の祝福。失樂園は、神への背きのプロローグから始まり、カナン(将来侵入予定)の地での出来事を通じて、各部族(アブラハム、イサク、ヤコブ)の神の、選びと祝福、未来(子孫繁栄と嗣業)への希望と保証の予告がある。土地取得と子孫(12部族)繁栄の契約(ノア、アブラハム、ヤコブとの契約)と各部族の出自の同一を述べ、全イスラエル部族の連合団結を基礎付ける。

INDEX

| | |
|--------------|-------|
| 1 成立年代とその背景 | …P2 |
| 2 創世記のアウトライン | …P3・4 |
| 3 資料集 | |
| 創世記の系図 | …P5 |